

団体概要書

(その1)

| | | | |
|-----------------|---|------------------------------|---|
| 団体名 | 特定非営利活動法人 関西芸術振興会 | 団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。 | <input type="checkbox"/> 公益社団法人 <input type="checkbox"/> 公益財団法人 <input checked="" type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 認定NPO法人 <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定) |
| 代表者の 役職・氏名 | (ふりがな) りじちょう いのうえ としのり 理事長 井上 敏典 | | |
| 主たる事務所の 所在地 | 大阪府大阪市都島区片町 2-4-14 TAKUTO ビル7階 | | |
| 設立年月 | 平成18年 6月 | 構成員数 | 198名 |
| 事業年度 | 4月 1日 から 3月 31日 | | |
| 団体の活動 目的 | この法人は、あらゆる人々に対して芸術文化の振興に関する事業を行い、国民文化の普及、発展、向上に寄与することを目的とする。 この法人は、上記の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。 ①まちづくりの推進を図る活動 ②学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 ③国際協力の活動 ④子どもの健全育成を図る活動 ⑤前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動 この法人は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。 (1) 特定非営利活動に係る事業 ①一般市民の音楽・オペラ等の広範な芸術鑑賞のための公演・展示に関する事業 ②広範囲な地域での音楽をはじめとする芸術活動及び音楽の教育に関する事業 ③芸術文化に関する調査研究・資料刊行に関する事業 ④その他目的を達成するために必要な事業 (2) その他の事業 ①興行業 ②物品販売業 | | |
| 活動分野 | ※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 1. 音楽 | | |
| 主な活動内容 | ・ 関西歌劇団によるオペラ公演及び演奏会の開催 ・ 関西歌劇団オペラ歌手育成のためのオペラ研修所の開講 ・ 一般市民を対象としたオペラ教室の開講 ・ クラシック音楽およびバレエの月刊専門紙「関西音楽新聞」の刊行 | | |
| これまでの主 な活動実績 | ※ 具体的かつ直近の活動内容がわかるように記入してください。 【関西歌劇団 オペラ公演】 平成27年5月15日 兵庫県立芸術文化センター小ホール スプリングオペラ「修道女アンジェリカ」 平成27年9月18日 西宮市プレラホール オータムオペラ「ヘンゼルとグレーテル」 平成27年11月25日・26日 吹田市文化会館メシアター中ホール 第3回コンチェルトベラ「ドン・ジョヴァンニ」 平成28年1月16日・17日 吹田市文化会館メシアター大ホール 第97回定期公演「こうもり」 平成28年2月27日 あましんアルカイックホール・オクト 「新進歌手によるオペラハイライト」 ※オペラ歌手養成事業本公演 【関西歌劇団 演奏会】 平成27年11月12日 大阪市中央公会堂 大阪都市魅力創造プロジェクト「フォトオペラ 惚れ薬騒動にて候 ～歌劇「愛の妙薬」より～」 平成27年12月11日 兵庫県立芸術文化センター小ホール 「クリスマスコンサート」 その他、演奏会を6回開催 | | |
| ホームページ | 有 (URL http://www.kansai-opera.co) / 無 | | |
| 機関紙 | 有 (機関紙名 関西音楽新聞 (Classic Note)) / 無 | | |

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第2条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎
 11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

寄附者へのPR等

(その2)

| | |
|--|---|
| <p>貴団体における現在の課題</p> | <p>全国的に、こと大阪においてはクラシックを含めた文化振興への風当たりは非常に厳しいものとなっており、弊会に限らず各団体とも人材面、財政面共に困窮を極めております。弊会としましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う芸術性の高い人材育成。 ・興業としての商品価値の向上。 ・活動継続と団体維持のための安定した財政基盤の構築。 <p>などが喫緊の課題となっております。</p> |
| <p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p> | <p>近年のオペラ公演では、演出の新解釈として現代的な衣裳や簡素な舞台セットへ置き換えての公演を見ることが多くなりましたが、これらは殊に制作費圧縮による裏返しであり、聴衆が憧れるような日常から離れた独特の世界感を損なっているとも言えます。総合芸術たるオペラ本来のあるべき姿を出来るだけ多くの皆様にご覧いただける日を目指して活動しております。</p> <p>また前述の課題克服を眼前の目標として、若手団員の育成と休団員の現役復帰による団の総合力の底上げ。運営コスト削減と賛助会員・サポート会員の新規獲得による財政基盤の安定化。合わせて市民参加型の企画公演や、低価格のコンサートや無料のPRイベントなど一般市民への還元とオペラ文化、クラシック音楽文化の啓蒙に一層、注力して行く所存です。</p> |
| <p>市民等寄附者に対するPR</p> | <p>「贅沢」とは何かと問うたとき、さまざまな答えの中で「感動する心」と答えられる人はどれほどおられるでしょうか。物質的に豊かになり、情報網の発達で、すぐに物や知識を手に入れることができるようになった昨今、人間の根底にある自分本来の力を見つめるということが希薄になりつつあるように思えます。そんな中私たち関西芸術振興会は関西歌劇団と関西音楽新聞などの活動をとおして、その心の中にある「感動」という贅沢を追求しています。総合芸術といわれるオペラの世界は、生身の人間の持つ肉声で、ありとあらゆる声の可能性を芸術的表現で観客の皆様と感動を共有しようとするものであります。</p> <p>関西歌劇団では一方的なパフォーマンスの伝達だけでなく、発声講座やオペラ教室、もっと身近に声を出す健康法など、様々な「声」を出すことによる生活の中の「幸福感」を求めており、この自由に出せる声と音楽の感動こそ、忘れてはならない「贅沢」だと考えています。しかし、クラシックと言われるジャンルは一般的には馴染みが薄く、その活動はなかなか厳しい現状がありますが、人が持っている唯一の楽器である「声」とおして輝こうとしている若者への未来の開拓のためにも、ここに皆様の温かいご支援を賜るものであります。世界的に経済環境の厳しい中ではありますが、どうかよろしくお願いを申し上げます。</p> |